

## 第76回 記者懇談会実施概要

1 日 時 2011年7月6日(水) 15:00～17:00

2 場 所 関西大学100周年記念会館 第2会議室

### 3 内 容

#### (1) 研究発表・質疑応答(15:00～16:00)

・山本敏幸 教育推進部教授

発表テーマ「Debate & Beyond・・・＜問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ力等の育成といった、高次の社会人基礎力の分野を含むカリキュラム開発・研究＞」

・永松伸吾 社会安全学部准教授

発表テーマ「キャッシュ・フロー・ワーク(CFW):震災復興の経済政策」

#### (2) 学内状況説明・情報交換(16:00～17:00)

① 東日本大震災に伴う関西大学の取り組みについて [資料1](#)

② 文部科学省平成23年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の

採択結果について [資料2](#)

③ 社会的信頼システム創生センター(STEP)の研究実装について [資料3](#)

④ 海外大学との連携協定締結について [資料4](#)

⑤ 第4回「氷の甲子園」ジュニアフィギュアスケート演技会および

トップスケーターエキシビジョン開催について [資料5](#)

⑥ 夏休み小・中・高校生向けプログラムの実施について [資料6](#)

⑦ 平成23年度地方教育懇談会開催について [資料7](#)

⑧ 平成23年度春学期卒業式および大学院学位記授与式、秋学期入学式の

挙行について [資料8](#)

⑨ 2012年度入学試験概要について [資料9](#)

⑩ 関大生の活躍について [資料10](#)

### 4 大学側出席者

楠見晴重学長、黒田勇副学長、

山本敏幸教育推進部教授、永松伸吾社会安全学部准教授、

与謝野有紀社会学部教授

中川雄弘広報課長、竹中敏治学長課長 他

### 5 参考資料

(1) 関西大学通信 第400号、第401号、第402号

(2) 関西大学ニューズレター「Reed」No. 25

(3) 第5回三大学(大阪市立大学・大阪府立大学・関西大学)連携公開講座チラシ

(4) 渋沢栄一記念財団寄付・次世代国際フォーラムチラシ

(5) 関西大学 2012大学案内・進学ガイド

(6) 行事予定表(7月～9月)

以 上

## Debate & Beyond・・・

<<問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ力等の育成といった、  
高次の社会人基礎力の分野を含むカリキュラム開発・研究>>

教育推進部 山本敏幸

現行の全学共通科目群には、学生が社会人となって日々の生活を営むために必須のスキル、コミュニケーションスキルや交渉力を育成する部分が欠けています。この課題を解決することが私の研究目標です。言い換えると、大学の長期ビジョンに合わせたカリキュラム・デザインを十分に教育で実践していくことです。

交渉力を身につけさせる「交渉学」という学問分野があります。「交渉学」は、交渉力を身につけることで、問題解決能力をも育成し、社会人に必ず必要となるチームワーク力、リーダーシップ力をも育成する学問領域です。「交渉学」は、米国ハーバード大学の交渉学研究所の研究に基づく、交渉の成功確率を上げるための方法論で、ハーバード大学のロジャー・フィッシャー教授が提唱した研究です。この研究から導き出されたキーワード：「Win-Win」は、ご存じの方も多いでしょう。

「交渉学」の特徴について述べます。まず、ディベートは対立する立場を取り、論理展開で優劣を競いますが、学生がディベートスキルを身につけて卒業し、社会人になってもそんなに使う機会はないでしょう。一方、「交渉学」はこれから長く、良い関係を作ろうとする交渉を含めたコミュニケーションにおいて活用できるスキルです。つまり、日々の生活におけるコミュニケーションの場で役に立つスキルです。「交渉学」では、次に挙げる能力を育成していきます。

- a. ミッション、ゾーパ、バトナという「共通のフレームワーク」を理解し、活用できる能力
- b. 相手に効果的に質問し、情報を引き出せるコミュニケーション力
- c. 準備した交渉シナリオに基づき、交渉を推進するマネジメント力
- d. 問題発見・解決力
- e. グループ活動を通じたチームワーク・リーダーシップ力

これらは、すべて交渉力の重要な要素で、社会人基礎力の中核をなす能力です。

米国では、ロースクールやビジネススクールなどで教えられている人気授業で、グローバル企業においても、交渉力は社員の基本的な能力の一つとして育成・教育されています。

日本では、関東圏を中心に浸透しつつあります。慶応義塾大学、東京大学、金沢工業大学大学院等で教えられ、企業でも、問題解決能力の育成やマネージャー育成の一環として、実施されるようになってきています。しかしながら、関西圏ではまだどの大学でも正規の科目にはなっていません。関西大学が真っ先に「交渉学」を正規カリキュラムに導入し、関西圏の他の大学にロールモデルとしてリーダーシップを発揮することは重要なことだと思います。

関西大学の全学共通科目に「交渉学」を組み込む研究・開発を行うことは有意義なことであると言えます。

氏名 山本 敏幸 教育推進部教授

### 研究分野（領域）

教育工学・eラーニング・eポートフォリオ  
(インストラクショナル・デザイン、学習理論、テスト／アンケート・デザイン、  
アセスメント)

### 学歴（取得学位）・職歴等

1992年 Rose-Hulman Inst. of Tech., Indiana, USA. Assistant Professor  
2002年 Indiana State University 大学院教育学部 Media Technology専攻  
Ph. D. 取得  
2003年 金沢工業大学 メディア情報学科 主任教授  
2010年 関西大学 教育推進部 教授

### プロフィール

2010年4月に関西大学教育推進部に赴任しました。2002年3月に帰国するまでは、アメリカの高等教育に20年ほどかかわってきました。その間に経験したり、身に付けたりした、教育哲学やeラーニングの考え方を現場の教育に実践しています。古い慣習や型にはまらないように、学習者の社会性を重視するコンストラクティビズムの学習理論を基礎として、学習者中心の授業・指導を目指しています。

これまで、eラーニングの学習環境、コンテンツ開発環境に携わってきましたので、例えば、eポートフォリオのような新しいICT技術をいかにして教育の場に活用していくかが研究の主体です。教育推進部では全学共通科目（1年生対象）を担当し、4年間のアカデミックライフを豊かにするような、プレゼンテーションスキルやパソコンを活用した学習スキルを、スタディスキルゼミという科目を通して教えています。このスタディスキルゼミは、プレゼンテーション、パソコンで学ぶの他、課題探求、レポートを作成する、論理的に考える、ディベート、文章力をみがく、ノートをまとめる、スタディスキルを身につける、新聞で学ぶといった基礎的な社会人基礎力を身につける科目群ですが、未だ、問題解決能力の育成、社会人に必ず必要となるチームワーク力、リーダーシップ力等の育成といった高次の社会人基礎力の分野が不足しています。

当面の研究は、これらの不足している分野を全学共通科目のカリキュラムに取り込み、如何にして学習効果をあげ、オールラウンドな社会人基礎力を身につけた人材を輩出するようなカリキュラムを開発するかということです。

## キャッシュ・フォー・ワーク (CFW) : 震災復興の経済政策

社会安全学部准教授 永松伸吾

### 【概要】

被災地ではしごとの問題が顕在化している。日本総研によれば被災失業者は14万人～20万人に及ぶという試算がなされている。しごとを失うということは、収入を失うということであり、それ自体これから生活を立て直そうとする被災者にとっては深刻な問題である。だが、しごとは単に生計を獲得するための手段ではない。しごとは多くの人にとっての生き甲斐であり、社会との重要な接点でもある。阪神・淡路大震災では、仮設住宅の孤独死の約半数が50代～60代の中年男性であり、失業をきっかけとして仮設住宅に引きこもりアルコール依存になった事例が少なくない。

このような問題が繰り返されることのないよう、筆者はキャッシュ・フォー・ワーク (CFW) という手法の導入を震災直後から訴えてきた。CFWとは、「労働対価による支援」と訳される。被災者が復旧・復興に必要な事業に従事し、その労働の対価として現金を支給し、被災者の経済的自立と被災地の経済復興を支援するしくみである。インド洋津波の被災地バンダアチェにおいてNGOらによって実施され、その後2008年ミャンマーで発生したサイクロンや2010年ハイチ地震の被災地でも実施され、大規模災害の被災者支援の方法として国際的には定着した手法である。フィリピンでは政府の復興支援プログラムにCFWが採用されているほどである。

筆者によるCFWの提言は国会でも取り上げられ、政府の『「日本はひとつ」しごとプロジェクト』でも参考にされた。また報告者は、実際に現地を訪問し、いくつかの地域で助言や支援活動を展開している。同時にCFW-JapanというCFW推進のためのネットワーク団体を立ち上げ、NGO、NPO、研究者、民間企業の方々と日々情報交換や発信を行っている。本報告では、CFWとは何か、それは歴史的に見てどのような発展を遂げてきたのか、現在の日本ではどのように導入されているのか、そしてその課題は何かについて紹介する。

### 【プロフィール】

1972年福岡県北九州市生。専門は災害経済学・公共政策（防災・減災・危機管理）。2000年大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程退学。同研究科助手。神戸・人と防災未来センター専任研究員、独立行政法人防災科学技術研究所特別研究員などを経て現職。日本計画行政学会奨励賞(2007年)、主著『減災政策論入門』（弘文堂）にて日本公共政策学会著作賞（2008年）。村尾育英会学術奨励賞（2009年）など。